

組合員ライターチーム紹介（五十音順）

 阿部映子 千葉市	 伊地知ふみこ 佐倉市	 伊藤友美 茂原市	 尾崎理子 流山市
 小野有紀 松戸市	 小原紘 我孫子市	 甲斐真理子 四街道市	 笠原由希 柏市
 桐谷利恵 佐倉市	 阪本貴子 大多喜町	 鈴木典子 船橋市	 田口佐和子 千葉市
 田中めぐみ 佐倉市	 長谷川朋美 船橋市	 福田ゆず子 大網白里市	 本多美知子 船橋市
 宮脇千鶴 千葉市	 吉澤正孝 習志野市	 渡邊裕美 松戸市	 山本百合 生活クラブ虹の街 福祉委員長

編集チーム・編集後記

助成レポートライターチームは講習会で始まり、取材のノウハウやポイント、写真撮りなどしっかり説明がありましたので大変勉強になりました。「せっけんの街」「足がる隊」「ラララ♪パステルアート」を渡邊さん、吉沢さんの3人チームで取材しましたがチームワークも良く楽しかったです。取材させていただいた皆さまのそれぞれの活動はすべて必要な事業です。これからも心から応援しています。
本多美知子

各地の助成先を訪問して報告を書き上げる生活クラブ組合員が、しかも無報酬で活動する有志が、こんなにもおられる事に驚きました。どのようにエッコロ助成金を活動に生かされたかが不明瞭だったり、体言止めの多用や内容が伝わりにくい文章も一部ありましたが、プロではない方々の文章力に感心しました。誤字修正以外で、思いのこもった文章を編集するのは大変でした。
鈴木典子

昨年10月から始まった取材も年をまたぎ春の息吹を感じる季節となりました。「生活クラブサステイナブルなひと」正にそういう人々に出会いました。どこに行っても笑顔で迎え入れていただいたことが今も頭をよぎります。私と生活クラブとのご縁は大親友がプレーンオムレツにかけてくれた「トマトケチャップ」です。その美味しさあって2015年12月から組合員となりました。
渡邊裕美

思いを同じくする人と一緒に作り上げる作業がしたくて参加したのですが、編集会議に参加できず、自宅作業になってしまったのは残念でした。でも他の班の皆さんが書かれた原稿や、取材班のメンバーからたくさん刺激を受けさせていただきました。また取材でお会いした方々の困っている人のために寄り添う姿、活動に感動！この冊子を通じて、共に生きる社会へ、一人ひとりの思いが広がっていくことを願っています。
長谷川朋美

2019年3月発行
生活クラブ虹の街
〒261-0001 千葉市美浜区真砂 5-21-12
連絡先：福祉・たすけあい事業部（電話 043-278-7768）
発行責任者：生活クラブ虹の街福祉委員会
編集：生活クラブ虹の街福祉委員会ライターチーム
表紙・似顔絵：阪本貴子
協力：両見英世・北村みのり（四街道こども記者クラブ）



サステイナブルなひと、
生活クラブ

COVER STORY

生活クラブ虹の街エッコロ福祉基金・エッコロ福祉助成
2018年度助成事業取材レポート



目次

2018年度事業助成団体（P2-5）

- ・NPO法人せっけんの街
- ・足がる隊
- ・ラララ♪パステルアート
- ・いっぽの会
- ・NPO法人 やちまた放課後クラブぶらんこ 就労継続支援 B型事業所ぶらん POCO
- ・我孫子自主夜間中学 “あびこプラス・ワン”
- ・みらいコーディネーターズ
- ・一般財団法人京葉教育文化センター
- ・布施新町いきいきネットワーク
- ・NPO法人 ワークスコレクティブういず
- ・NPO法人 VAIC コミュニティケア研究所

エッコロ福祉助成と「Cover Story」発行に際して（P6）

- ### エッコロファンド（P7）
- ・生活クラブ虹の街小規模保育おたかの森
 - ・くらしと家計の相談室
 - ・スワンペーカーリー 柏店
 - ・アリエッティ基金

ライターチーム紹介・編集後記（P8）

NPO法人 せっけんの街

事業名 リサイクルせっけんの製造現場の環境改善とせっけん製造事業

助成額 300,000円 助成対象 シャワー及びユニット組立て費用 活動エリア 千葉県内

きれいな水で次の世代に

化学的酸素要求量（COD）は湖沼の汚染を示す指標ですが、手賀沼は1974年に汚染度が全国ワースト1になりました。NPO法人せっけんの街設立の経緯はこの汚染を契機として周辺市町村が直接請求運動を展開したことによります。次世代にきれいな水を残したいという思いから、1985年に手賀沼工場が操業を始めました。

汚染の主因は洗濯に使われる合成洗剤と家庭の台所から流される油で、湖の富栄養化により魚等の生物の生息出来ない状態になりました。60年前には水遊びが出来程のきれいな湖でしたが、湖周辺の人口増に伴う合成洗剤の使用量と廃食油の増大で急速に汚染は加速されました。水質の改善を図



るために廃食油の回収によるリサイクルせっけんの製造が開始されます。手賀沼は17世紀初頭、江戸幕府による利根川の大改修が着手され、洪水と築堤の繰り返

返しの中で、1785年老中田沼意次の手による干拓事業がその歴史の始まりです。その後約180年を経て、1950年に手賀沼排水場が完成しました。

汚した水は飲料水に戻ってくる

沼の水を少しでも浄化したいという熱意は、合成洗剤による汚染と汚した水は最終的には自分たちの飲料水になって戻ってくるという強い危機感が環境改善の運動の推進力となりました。手賀沼工場は33年が経過して老朽化し、シャワー室と着替え室の改築、トイレの新設がエココロ福祉助成金への応募となりました。

粉せっけんの製造に携わっている4名の工場員は粉まみれになってしまうので、職場環境の改善は生産力のアップにつながります。せっけんの街製品の販売増も大きな目標です。

現在、湖の汚染はわずかに改善されてきていますが、代表の道端さんの「ごまめの歯ざしりでも、良い水を後世に残したい」という強い思いが印象的でした。（吉澤正孝）

足がる隊

事業名 足うらりフレクソロジーの普及とボランティア活動

助成額 109,880円

助成対象 パソコン購入代・プリンター購入代

活動エリア 松戸市内中心

足裏リフレクソロジー（足裏反射区療法）の技術を広める活動をしている「足がる隊」です。「足裏には、体の臓器や器官に通じる64ヶ所の反射区と呼ぶ所があり、痛ッ・気持ちイッ！と感じる程度の刺激を与えると、血流やリンパの流れがよくなり、体が楽になる」と三浦代表は言われます。足がる隊はこの技術を習得する講座を年に2回開催しています。技術を習得することで家族や友人に、またボランティアとして松戸市内のデイサービスや施設を毎月訪問して施術し、利用者さんたちの体を楽にしています。

今回定例勉強会に参加した皆さんからは「認知症の方たちが気持ちが良いと受けてくれます。いくつになってもボランティア活動で社会参加ができるのはうれしい」など、さまざまな声を聞くことができました。会員への連絡など



は個人所有のパソコンを使用していました。専用のパソコンとプリンターを購入でき、一斉配信などさらに手軽になりました。（本多美知子）

ラララ♪パステルアート

事業名 パステルアート講座

助成額 63,500円

助成対象 スタッフ交通費・ボランティア保険代

活動エリア 松戸市

ラララ♪パステルアートは色による癒し効果によって脳が活性化します。そしてコミュニケーション力や自由な表現力がアップし、自信に繋がる、心を豊かにする活動です。

小橋代表他子育て世代ママさん方5名がデイサービスを利用している高齢者に笑顔で丁寧に指導しています。「素敵、お上手、可愛い」のほめ言葉が行き交い、受講生の満足気な表情が印象的でやさしいひと時を共感し合う空間です。1時間の慌ただしい中ですが「また来てね」との声にメンバーのやる気もアップします。

少しでも個人負担を少なくするため、助成金は交通費とボランティア保険代に活用しました。（渡邊裕美）



いっぼの会

事業名 こども・若者の居場所づくり

助成額 300,000円

助成対象 備品購入費・事務消費費・日用品費・通信運搬費・旅費交通費

活動エリア 柏市

柏駅から歩いてすぐのアパートの一室にあるいっぼの家。18歳で児童養護施設を出たこどもや、親と同居しつつも学校や仕事をやめたりした若者の居場所です。開設から1年余、彼らの相談や話し相手になりながら運営をしているのは永桶代表と枝川さん。これ迄に十数人の子ども達と交流してきました。「ひとつの職場に長く居られない子が続けてみよう」と前を向いたことや、自分に無関心な子がおしゃれに興味を持ち始めた事が嬉しかった」と枝川さんは目を細めて振り返ります。「一人ひとりと対話を重ねるにつれ、本音話してくれることが嬉しい」と永桶代表。昨夏から引きこもり女子に限定したカフェも始め、ここに通り若者も増えつつあります。はじめの一歩、社会との繋がり架け橋にという願いを少しずつ形にしています。（尾崎理子）



NPO法人 やちまた放課後クラブぶらんこ 就労継続支援 B型事業所ぶらん POCO

事業名 作業の効率UPを図るための事業所整備

助成額 137,160円 助成対象 エアコン購入代

活動エリア 山武市・八街市

「こんにちは」作業しながら明るく元気な声で迎えてくださいました。2016年4月にB型事業所として指定を受けたぶらんPOCOでは、スタッフ4名と20代前半の利用者6名で作業をしています。事業所の募集広告や企業からの紹介で、ペンや食品容器へのシール貼り、コーナークッションのバーコードシール貼り、弁当配達、有料駐車場清掃等の仕事をしています。各作業にはノルマもあり、みんな真剣に集中して取り組んでいました。室内作業では不良品を出さないためにも適切な温度管理は必須です。今後利用人数が増える予定ですが、運営実績がまだ浅く、自費でエアコンの設置が難しい状況でした。猛暑前の5月にエココロ福祉助成金でエアコンが設置できて、利用者さんはとても喜んでいました。（鈴木典子）



我孫子自主夜間中学

“あびこプラス・ワン”

事業名 子どもから大人の、中学までの学びや学び直しを支援する

助成額 300,000円 助成対象 スタッフ交通費

活動エリア 常磐線・成田線沿線

自主夜間中学

あびこプラスワンは、市民の自主運営による学びの場で、普通の中学校ではありません。2013年に我孫子駅前にある「けやきプラザ」で開講、その後湖北に2つの教室を開き、現在3ヶ所の教室に生徒63名、スタッフ35名が登録、各教室で週1回、18時から2時間の自主学習の場を提供しています。参加費は無料でスタッフ全員がボランティア。経費のうち会場費は市の助成金で、ボランティアの交通費は民間からの寄付金と不足分をエココロ福祉助成で補いました。

取材チームはけやきプラザの教室を訪れ、マンツーマンや少人数に分かれた学習風景を見学しました。幼稚園児から高校生、86才のお年寄りまでと参加者の年齢は幅広く、中国、パキスタン、ネパールといった外国出身の方もいました。和気あいあいとした中にも真剣に学ぼうとする雰囲気を感じられ、私たちの取材にも明るく応えてくれた参加者たちが印象的でした。

学ぶ心を大切に

「わかるまで教えてくれる」「勉強が楽しい」という中学生や高校生の声、戦争のため中学校に行けず、この教室で読み方・算数を学んでいるお年寄りの姿は感動的でした。学校の授業についていけるか心配で子どもを連れてくる若い中国人のお母さん。日本語の学習だけでなく幅広い分野の勉強をしたい外国人も増えているようです。

ひきこもりや教育格差対策として我孫子市は独自に「マナビトラボ」という学習支援教室を開いていますが、当日教室に来ていた市の担当者は、学校に行けない・来ない子どもたちをどうやって支援していくのか、夜間中学と協力していきたいとのことでした。会の設立者の相澤さんは元学校教師で「競争社会のなかで学びから疎外される子どもが増えていく。誰でも楽しく学べる場を提供したい」と意欲を語ってくれました。ここに通っていた子が今では大学生になって教える側になったという話からもこの学校の可能性を見た思いです。

（小原紘）



みらいコーディネーターズ

事業名 木更津市内でのこども食堂の運営（第2期）

助成額 124,740円 助成対象 炊飯ジャー代・マイコンスーブジャー代 活動エリア 木更津市

市内の「みらいラボ」を会場として活用

木更津駅から徒歩1分の「木更津市民活動支援センターみらいラボ」。軽食や飲み物、キッズスペースがあり、夕方には自習をする中高生の姿が見受けられます。

この場所で月1回「木更津みなと口こども食堂」を運営する「みらいコーディネーターズ」の山下代表は、商店街のシャッター化が深刻になる木更津市で、まちおこしの活動を続けてきました。空き家や貧困などの問題解決に向けこども食堂を企画していた所、みらいラボ活用の話があり、実施することになったそうです。

多世代交流の場としての「こども食堂」を

開催日の告知はFacebookやTwitterで行い、ポスティングも広範囲に行った結果、初回は100人超、その後も親子連れを中心に平均70～80名が集まるようになりました。

11月の開催日に会場を訪ねると、1時間前からすでに幼児や小学生がキッズスペースに集まっていました。やがてス

タッフの方々が別の公民館で作ってきたシチューとサラダが運び込まれます。地域の農家や食肉業者の方から提供があり、材料費はほぼ無料とのこと。エコロ福祉助成で購入した炊飯器はフル稼働しています。用意した料理はいつも全てなくなるのだそうです。食事がひと段落すると、子どもたちは遊びに戻り、ママ達は話を花を咲かせていました。

「スタッフには将来こども食堂をやりたい、という高校生や障がいのある方もいます。お客さんとしてだけでなく、スタッフとしても居場所を提供できるのが、こども食堂のいい所です」と山下さん。「今後はさらに敷居を低くし、多世代が交流できる場所にしたい」と語っていました。

(福田ゆず子)



一般財団法人 京葉教育文化センター

事業名 こども食堂「トイトイ」

助成額 54,274円 助成対象 炊飯器代・教材代・調理器具代 活動エリア 市原市辰巳台東

食欲そそる香りと笑顔あふれる場所

こども食堂トイトイのドアを開けると、出迎えてくれたのはキーマカレーの美味しそうな香り。祝日にもかかわらず、15名もの子ども達がいるにぎやかな食事風景がありました。

トイトイは、一般財団法人京葉教育文化センターの数ある事業の中の一つです。2016年8月、山本代表と上符さんを中心に、地域の居場所を作りたいという熱意のもと始まりました。ちゃんと食事を取れない子ども達へ食事を提供することを目指していましたが、日本語教室に通う外国の方、社会とつながりを持ちたい方々なども集う場にもなっています。地域の活動を盛り上げられる場所、地域と子どものホットな場所を作りたいという気持ちで続けられています。



今年春からは、辰巳地区社会福祉協議会も参加し第1・3土曜日の月2回開催で、普段の参加者は10～20名ほど。トイトイの1日は、15時に食事準備を始め、

16時くらいから小さい子ども達の遊びの時間。17時から食事、片づけ、子ども達はトランプ遊びなどして解散です。

欠かせない支援の輪

食材の野菜・米は賛同する農家やお店、フードバンクからの提供も受け、肉類・デザート類は大人300円、子ども100円の会費でまかなっています。そして、エコロ福祉基金の助成金が大活躍。今年度は炊飯器・ホットプレートなどの調理用具、遊びに使う子ども用ハサミ・折り紙・将棋盤などが購入され、大いに役立っていました。

参加人数がわからない中での食事準備は大変では、という問いに「全然！どうにかりますよ！」とはじける笑顔で答えてくださったスタッフの皆さん。スペースを広げて遊びや母親達の場を別々に確保したい夢もあるそうで、そのバイタリティにこちらも元気をもらったトイトイへの訪問でした。(田口佐和子)

布施新町いきいきネットワーク

事業名 布施新町における健康長寿のまちづくり

助成額 37,029円 助成対象 CD ラジオデッキ購入代・マイク購入代 活動エリア 柏市布施新町

2012年4月に布施新町いきいきネットワークは発足しました。

目標は3つで「住民みんなで元気に過ごせる」「必要な時に気軽に支え

合える」「病気で安心して過ごせる」というものです。その実現のために現在、8つのグループが活動しています。そのうちのひとつに「ふれあい体操の会」があり、そこで使用するマイクとCDラジオデッキの購入にエコロ福祉助成金が利用されました。

体操は週に3日、各公園でリーダーの指導の下にラジオ体操ほか脳トレ体操も行っています。担当者によれば、「助成前よりマイクもCDの音も良く聞こえるようになった」とのことです。集われて2年になるという参加者は、「おかげで外に出られ、皆とも顔を会わせられて、体操した後はとても気持ちがいいの」と楽しげに話していました。(甲斐真理子)



NPO 法人

ワーカーズコレクティブういず

事業名 街の縁側居場所作り

助成額 184,680円 助成対象 アプローチ改修代 活動エリア 佐倉市



佐倉市江原台の空き家を活用して、地域の居場所作りの為、3年前に「オアシス」を開設しました。

しかし、古い建物なので入口に急な階段があり、高齢者やベビーカーの方は昇り降りが大変です。足元を気にせず、誰でも気軽に入れる街の縁側作りには、アプローチの改修が欠かせません。そこで助成金を申請して、裏口を整地しました。玄関口の急な段差を避けて裏口から入れるように、物置や木を片付けました。

オアシスは庭が整備されていて、花がたえずきれいに咲いています。ゆっくりお茶を飲みながら庭を眺めていると、まさに縁側でくつろいでいる気分が味わえます。

「アプローチの改修が終わってから、まだ1ヶ月しか経っていません。利用はまだ少ないですが、利用者が来やすくなったのは目に見えてわかります。乞うご期待、と言った所です」

オアシスを運営している皆さんは、いつも笑顔と話題が絶えず、楽しそうに会議をしていました。(田中めぐみ)

NPO 法人

VAIC コミュニティケア研究所

事業名 貧困の連鎖防止 ～ともに育てる子どもの未来～

助成額 77,000円 助成対象 エプロン・ホットプレート等 活動エリア 千葉市・柏市・八街市

貧困の連鎖防止を目的とする事業

貧困状態にあるということは、給食費が払えない、皆と同じものが持てないなど金銭や物質の欠如であるだけでなく、自尊心が育たない、人の輪の中に入れられないなど人と人と社会との関係に影響を及ぼします。

今回、特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所へ赴き、助成を受けた貧困の連鎖防止活動を展開する事業でエコロ福祉基金がどのように活用されているかを伺いました。

こちらの事業では、家庭の貧困等の理由で居場所を見つけにくい環境にある小学生から高校生と一緒に食事を作るという生活支援を行っています。そして参加者が普段の生活では得にくい経験を得て自尊心や自己肯定感を復活できるよう、一人ひとりに合わせた関係性を重視する支援をしています。そのため利用者は一度に5名程度までだそうです。

一枚のエプロンが生んだ変化

助成金の77,000円で購入されたのは、グラタン等を作るオーブントースター、たこ焼き等を作るホットプレート、エプロン、皆で遊べるパドミントンラケットなど、特別な物ではありません。しかしこちらに来ることで、相手の顔を見て話ができるようになったり、学校に通い続けることができるようになったりという変化が起きたそうです。

質を重視する支援は数字に表れにくいと言えます。また、活動を継続することも重要です。これからの展望として、行政やスクールカウンセラー、社会福祉協議会等の他機関と連携してネットワークを張り巡らせ、より必要な人に支援を届けたいと語って下さいました。(小野有紀)



エコロ福祉助成と「Cover Story」発行に際して

1団体あたりの助成上限額は30万円、総額は200万円のエコロ福祉助成。これは、エコロ制度の掛金収入の一部を原資にしており、高齢者、障がい者、生活困窮者、子どもたちが、安心して地域で暮らしていくために必要な事業や活動をはぐくむことを目的として設置しています。

なぜこのようなものを設置したのかというと、これは、「自ら進んでやってみよう」「一人ひとりが考えること、多くの人が力を合わせて行動することを大事にしよう」「必要なものは自らまかなおう」という生活クラブの精神に基づいています。

つまり助成を設置するという行為、そして応募・審査・組合員投票・取材レポート発行は、「必要なものを自らまかなう」=「自給」という、食の分野で生活クラブがとても大事にしていることを福祉で実践したものです。

生活クラブ虹の街の福祉政策に「福祉の自給圏作り」という言葉がありますが文字で見ると難しく、何をしたらいいのだろうというとてもおきな物に感じます。しかし、それは静かに確かに進んでいます。組合員は100円を毎月支払う、虹の街はそれを仕組みに変える、組合員と地域の方が動く、という見えない糸のつながりがこんなにも地域と人を豊かにし喜びを生みだしています。このレポート集を通して、毎月の100円の掛金の豊かさと、自分も地域づくりに貢献しているという実感を得ていただければ幸いです。

福祉委員長 山本百合

2018年度助成事業の応募受付からCover Story発行までの流れ



(※) 2018年1月15日から2月2日までカタログと一緒に配布、デポーは1月情報配布物として配布しました。また、この時期に開催された地域集会等で集めました。組合員投票は一人2団体まで応援する団体を選び、投票数に応じて反映度は高くなります。今回は組合員数(36,997人)に対し、584人から1067票が集まったため、15点(審査員一人の持ち点は10点)が審査に反映されました。

エコロファンド 虹の街の福祉政策を具体化する事業資金として活かされます。

生活クラブ虹の街小規模保育おたかの森

事業名 小規模保育園事業
 助成額 2,000,000円

食べる・寝る・遊ぶという生活の基本をシンプルに守るこの園は、「食育・木育・共育」を三本柱として五感をはぐくむことが目標とされています。食材・せっけんはもちろん消費材を利用し、椅子・滑り台はエコロ福祉助成金で購入したもので、エコロマークの焼印が押しありました。厚み30mmもある杉材の床の上で、子どもたちは1年中裸足で過ごします。近くには公園が複数あり、常に自然とふれ合える環境です。

普段から地域住民との関わりを持ってほしいとの願いから、地域の方と一緒に野菜や花を育てています。

子どもには家族の次に自分を出せる場所として、一人ひとりが他者と関わる人間として育ててほしい。保護者には第2の実家として、またここへ帰って来たいと思える心のよりどころになっていたら……と、熱く語る園長先生は、あたたかくほんわりとした笑顔の方でした。

(阪本貴子)

くらしと家計の相談室

事業名 生活相談・家計再生支援貸付事業
 助成額 1,700,000円

相談員は生活クラブの元職員や組合員の4名で社会福祉士の資格を持っている方や心理に通じている方が行っています。傾聴を大切にしている、「最初の相談のときに言葉少なな方が、2回目に生活の見通しがつく事により、明るい顔になっています」と話していました。

他所より金利が9%と低く、300万円まで借りる事が出来ます。ただお金を貸すだけではなく、多重債務者には弁護士を紹介したり、生活困難者には家計を一緒に考えたり、伴走型の支援を心がけているとのことでした。

どこからもお金が借りられない方が、タウンページや県民だよりなどに載ったチラシを切り取り握りしめて来られることもあるそうです。そして、生活再建に結びついていくとのことでした。

助成金は県民だよりや市政だよりの広告掲載や電車の窓に貼るステッカーなどの広報資材の費用として使用しました。(桐谷利恵)

スワンベーカリー 柏店

事業名 障がい者就労支援事業
 助成額 1,000,000円

ブルーのひさしが目印の小さな店内には香ばしいパケッ トやかわいい動物パンが並びます。スワンベーカリーは1998年、障がい者の自立・支援の目的のもと銀座に1号店が誕生しました。2004年オープンの柏店も主に知的障がい者の雇用をしながら、14年の間営業を続けています。

「どういう作業ができるのか個性を見ながら仕事を任せ ています」と後藤店長。パンの成形や洗い物など、一つひ とつの仕事が丁寧にできる周りのスタッフも支えています。パンセットに入れる手紙も担当しているのはオープ ン当初からのスタッフ、小林さんです。はにかんだ笑顔で 対応してくれました。

取材では障がい者就労の難しさについて伺いました。エコロの助成金や皆様のご利用が働く場を提供するという支援につながっています。(笠原由希)



アリエッティ基金

助成額 800,000円

2010年生活再生支援センターで緊急小口貸付用の資金として生まれたアリエッティ基金は2015年に生活クラブ虹の街が基金を管理・運営する団体に改組しました。現在上限3万円無利息のつなぎ資金として、相談者の公的資金の受給や就職先からの給与支給までの生活費の不足など急なお金の困り事に力を発揮。現在エコロの助成金が原資になっています。

相談員の方々は日々勉強され、行政や公的融資機関、弁護士などと連携し、相談者一人ひとりに有利で有効となる案内ができるように務めています。

相談員の親身で誠実な対応があってこそ生まれる信頼関係のもと成り立ち、エコロの困った時はお互い様という善意の循環を支えているアリエッティ基金。今回お話をしてくださった庄さんが「思い悩んでいた様子の相談者の方が笑顔になってくれて、役に立てたと感じた時が本当に嬉しい」と微笑んだ顔がこの基金の温かさを物語ります。

(伊藤友美)